

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

平成25年 1月～3月 実績

平成25年 4月～6月見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井北、福井東、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100%）
6. 調査対象期間 平成25年1～3月期実績及び平成25年4～6月期見通し
7. 調査時点 平成25年3月1日（金）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.6%	24	14.6%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	30.9%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.5%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について＜増加・上昇・好転＞の割合から＜減少・低下・悪化＞の割合を差し引いた値で、＜景気動向指数＞を表しています。DI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

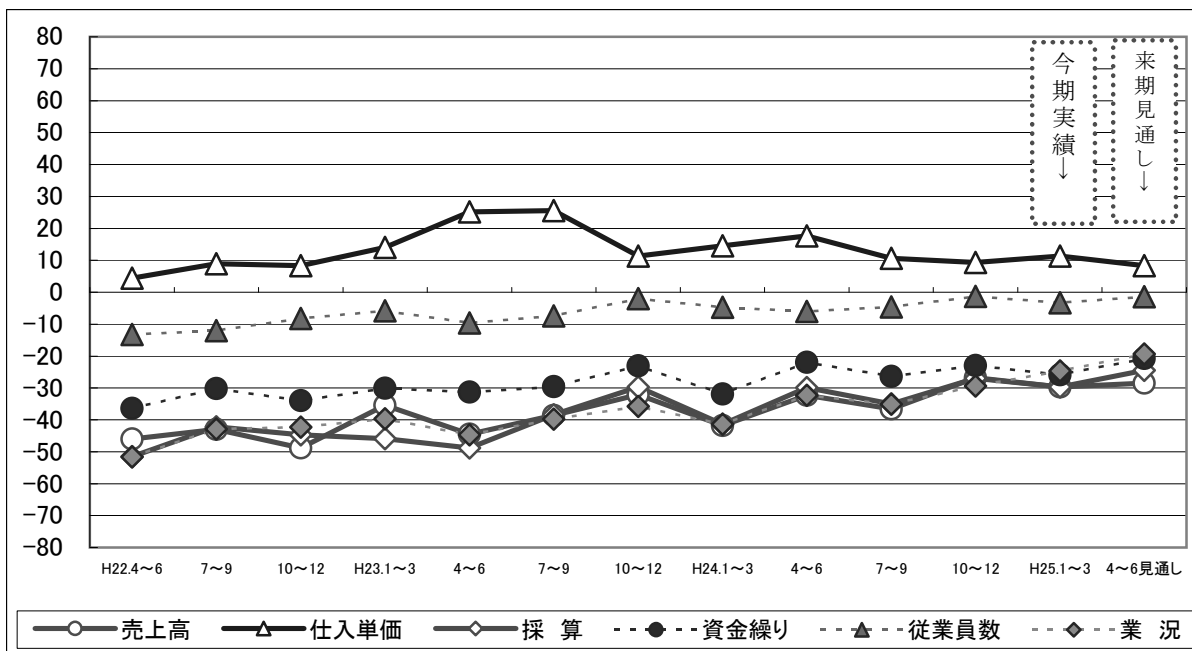
$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

10. 分析執筆者 福井県立大学地域経済研究所 教授 南保 勝 氏

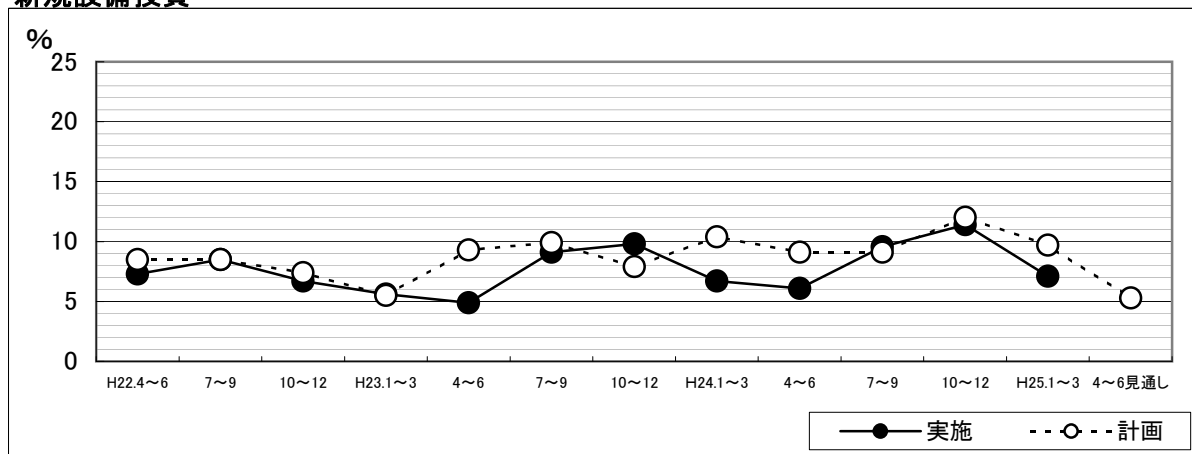
全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向推移(前年同期比:DI値)

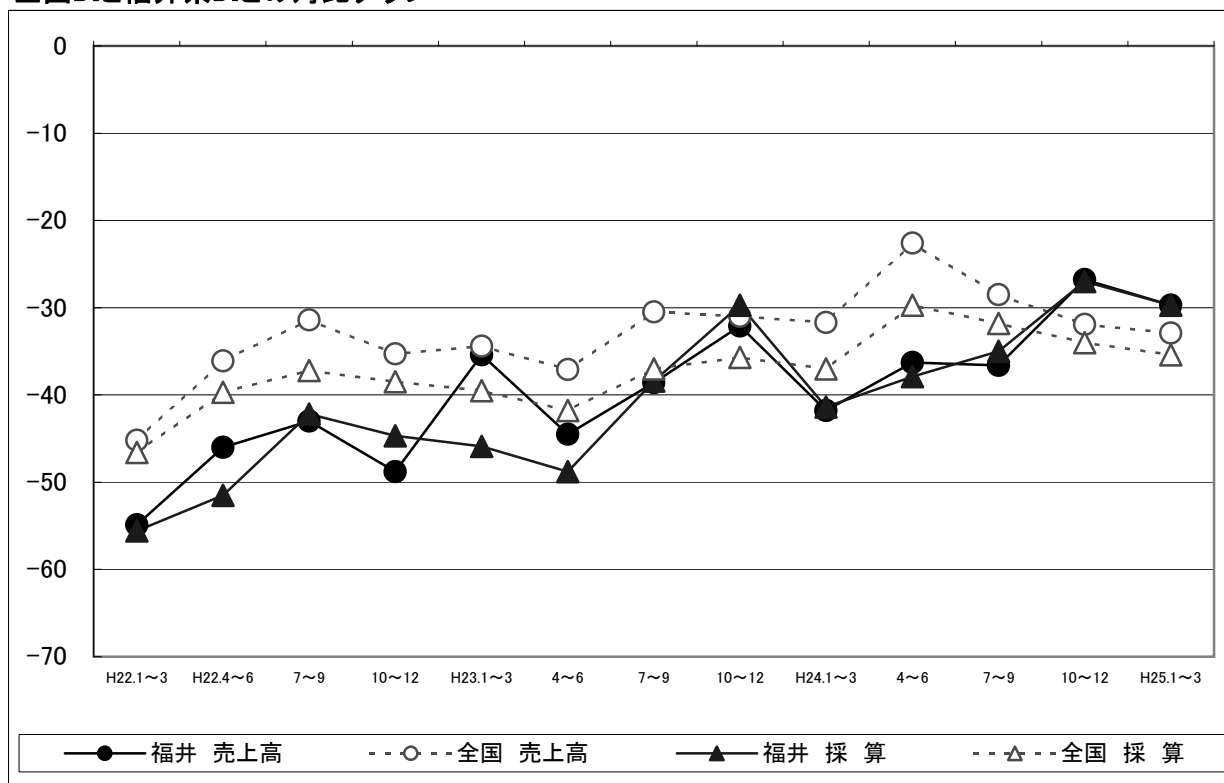
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H22.4~6	▲ 46.0	4.4	▲ 51.5	▲ 36.4	▲ 13.2	▲ 51.6
7~9	▲ 43.0	8.9	▲ 42.2	▲ 30.2	▲ 12.0	▲ 42.9
10~12	▲ 48.8	8.3	▲ 44.7	▲ 34.0	▲ 8.2	▲ 42.3
H23.1~3	▲ 35.4	14.0	▲ 45.9	▲ 30.1	▲ 5.8	▲ 39.7
4~6	▲ 44.5	25.2	▲ 48.8	▲ 31.3	▲ 9.6	▲ 44.7
7~9	▲ 38.6	25.6	▲ 38.4	▲ 29.6	▲ 7.4	▲ 39.8
10~12	▲ 32.1	11.3	▲ 29.7	▲ 23.1	▲ 2.0	▲ 35.8
H24.1~3	▲ 41.8	14.5	▲ 41.4	▲ 31.9	▲ 4.7	▲ 41.4
4~6	▲ 32.3	17.6	▲ 29.9	▲ 22.0	▲ 6.0	▲ 32.3
7~9	▲ 36.6	10.6	▲ 35.0	▲ 26.4	▲ 4.6	▲ 35.1
10~12	▲ 26.8	9.3	▲ 27.0	▲ 23.0	▲ 1.3	▲ 29.4
H25.1~3	▲ 29.7	11.3	▲ 29.7	▲ 25.9	▲ 3.3	▲ 24.7
4~6見通し	▲ 28.5	8.3	▲ 24.5	▲ 20.8	▲ 1.4	▲ 19.3



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

平成25年1-3月期の日本経済を概観すると、新政府の政策効果や株高、円安の影響による企業マインドの回復などから持ち直しの気配を強めている。ちなみに、海外では米国等で景気が持ち直しに向かうとみられるほか、国内も自動車販売の反動減が一巡することなどから、緩やかな持ち直しが続くと思われる。また、4-6月期以降も、緊急経済対策に伴う公共投資の押し上げや、円安を通じた輸出環境の改善が期待されている。

一方、福井県経済（1-3月期）に目を転じると、企業部門では、製造業で、繊維、眼鏡枠が不冴えながら、スマートフォン向け電子部品・デバイスの需要が増加しているほか、一般機械も新興国向けなどで動きがみられる。また、化学も医薬品需要を中心に増加しているほか、プラスチック製品も建築資材に動きがみられるなど、総じて堅調に推移している。家計部門も、消費マインドの改善が進んでいることなどから、今後、個人消費は上向くとの見方もなされている。

ただ、今期（H25年1-3月期）の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目のうち、業況（前期▲29.4→今期▲24.7）がやや改善したものの、その他の5項目は全て悪化傾向を示した。ちなみに、売上高が前期▲26.8から今期▲29.7へ、仕入単価（逆指数）が前期9.3から今期11.3へ、採算が前期▲27.0から今期▲29.7へ、資金繰りが前期▲23.0から今期▲25.9へ、従業員数が前期▲1.3から今期▲3.3へと悪化した。ただ、来期（平成25年4-6月期）の見通しについては、6項目全てで改善予測となっており、水面下ながら幾分持ち直すことが期待される。

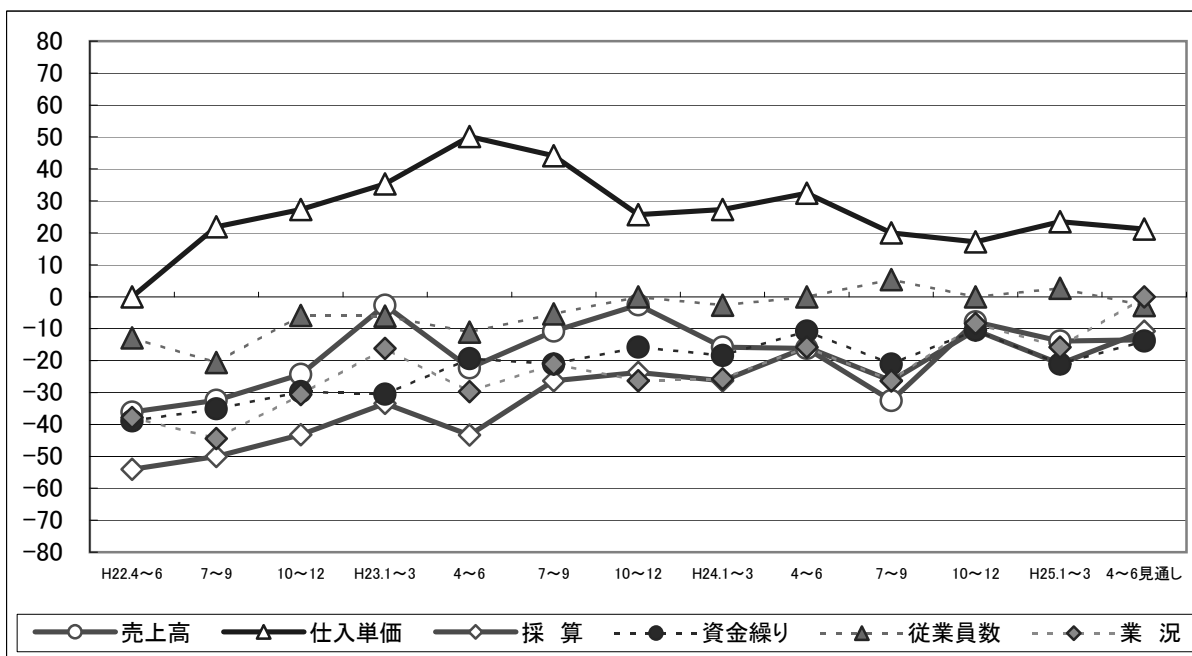
また、売上高と採算につき、そのDI値を全国と比較すると、両項目とも全国、福井県ともに悪化傾向となっているが、その下げ幅は福井県が大きい。ちなみに、売上高は、全国の▲32.9（前期▲31.9）に対し、福井県▲29.7（前期▲26.8）。採算は、全国の▲35.4（前期▲34.0）に対し、福井県▲29.7（前期▲27.0）となった。しかし、両項目とも、全国、福井県ともにその水準は低く、景況は予断を許さない状況にあるといえよう。

一方、今期の新規設備投資実施状況については、計画の9.7%に対して実施が7.1%となり、やや実施が計画を下回った。また、先行き（H25年4.6月期）についても、設備投資を計画する企業割合が5.3%と低水準にとどまっている。

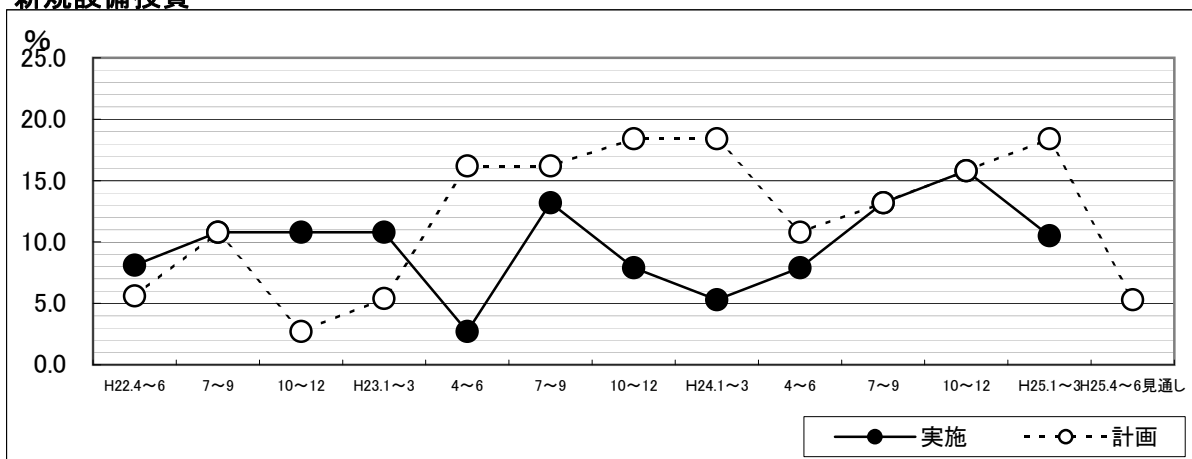
製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

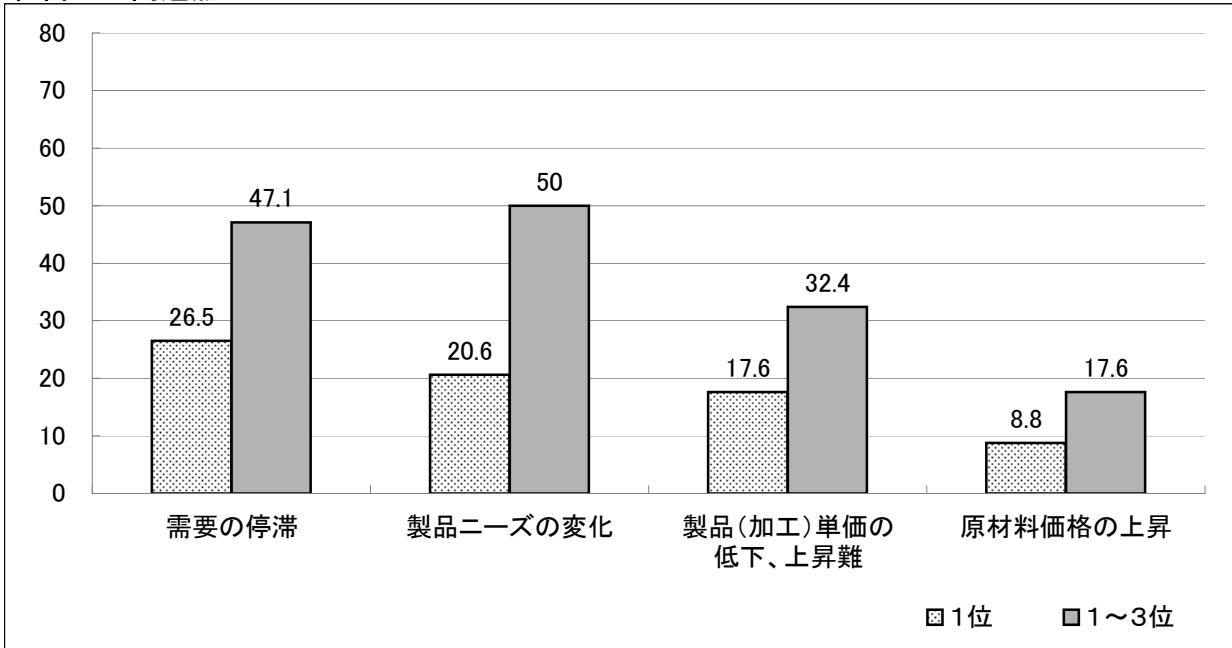
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H22.4~6	▲ 36.1	0.0	▲ 54.1	▲ 38.9	▲ 12.9	▲ 37.8
7~9	▲ 32.4	21.9	▲ 50.0	▲ 35.1	▲ 20.6	▲ 44.4
10~12	▲ 24.3	27.3	▲ 43.2	▲ 29.7	▲ 5.9	▲ 30.6
H23.1~3	▲ 2.7	35.3	▲ 33.4	▲ 30.5	▲ 6.1	▲ 16.2
4~6	▲ 22.3	50.1	▲ 43.3	▲ 19.4	▲ 11.1	▲ 29.7
7~9	▲ 10.8	44.1	▲ 26.3	▲ 21.1	▲ 5.4	▲ 21.1
10~12	▲ 2.6	25.7	▲ 23.7	▲ 15.8	0.0	▲ 26.3
H24.1~3	▲ 15.8	27.3	▲ 26.3	▲ 18.4	▲ 2.7	▲ 25.7
4~6	▲ 16.2	32.4	▲ 15.8	▲ 10.8	0.0	▲ 15.8
7~9	▲ 32.5	20.0	▲ 26.3	▲ 21.1	5.4	▲ 26.3
10~12	▲ 7.9	17.2	▲ 10.5	▲ 10.5	0.0	▲ 8.4
H25.1~3	▲ 13.9	23.5	▲ 21.0	▲ 21.1	2.7	▲ 15.8
4~6見通し	▲ 13.5	21.2	▲ 10.8	▲ 13.9	▲ 2.8	0.0



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・ここ2～3年は業況にあまり変化がありません。
- ・製品単価がなかなかアップしない。
- ・円安による原材料の値上がりが心配。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、電気機械ではスマートフォン需要を中心とした電子部品・デバイス、化学では化粧品や医薬品関連需要、プラスチックでは住関連需要などで堅調な生産・出荷動向を維持している。しかし、地場産業の繊維工業では、織布業で、衣料品などの季節需要の動きが鈍く、加えて海外類似品との競合などから、低調な生産出荷動向が続いているほか、染色・整理業も、医療資材やベンベルグ、ニットなど一部の品目で動きが見られるものの、総じてみれば輸出減退の中で厳しい展開を強いられている。また、眼鏡枠も、内需は海外品の流入による価格破壊の進行、外需は円高、欧州危機による需要不振や海外産地との競合などから、受注量・受注単価ともに一段と激しさを増している。

こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目中、従業員数（前期0.0→今期2.7）を除く5項目で悪化傾向を示した。特に、採算（前期▲10.5→今期▲21.0）、資金繰り（前期▲10.5→今期▲21.1）の2項目で10ポイント以上低下したほか、売上高（前期▲7.9→今期▲13.9）、仕入単価（逆指数）（前期17.2→今期23.5）、業況（前期▲8.4→今期▲15.8）などでも低下幅が比較的大きい。この要因としては、昨今の円安による原材料価格のアップなどが影響しているものと思われる。

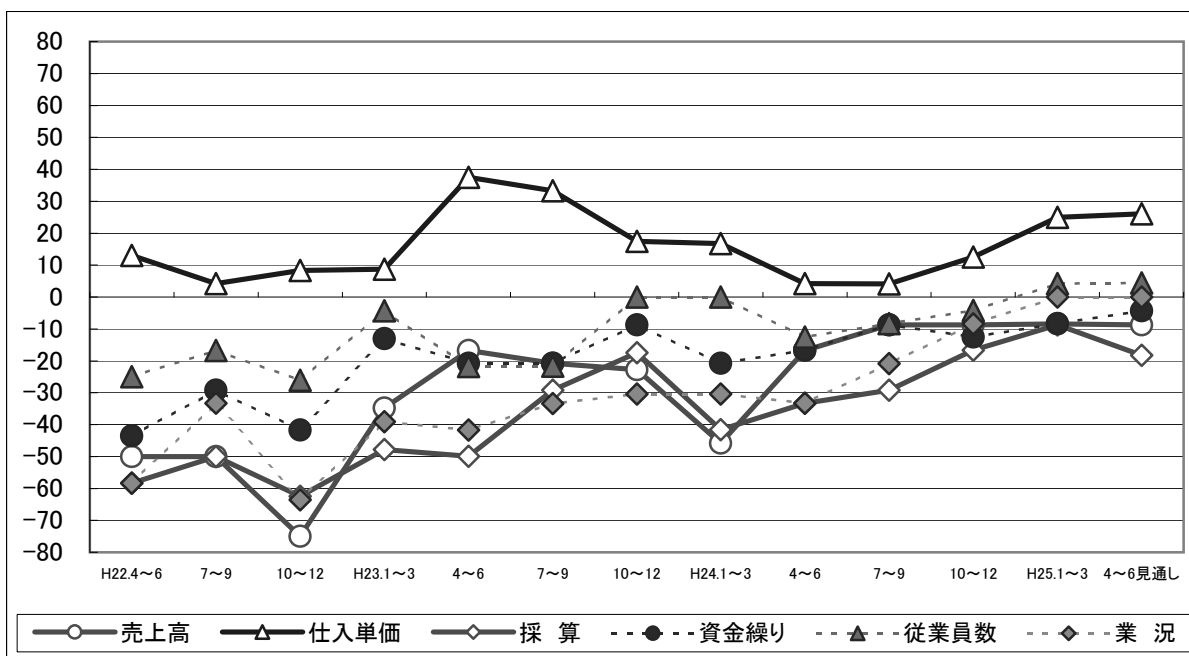
一方、今期の新規設備投資実施状況については、計画18.4%に対し、実施が10.5%となり、実施が計画を大きく下回った。また、先行き（H25年4-6月期）についても5.3%の計画割合となっており、現状での低調な投資意欲が見て取れる。

その他、経営上の問題点については、前期に引き続き「需要の停滞」を指摘する企業が多く、1位に挙げた企業ウエイトが26.5%、1位～3位までに挙げた企業ウエイトも47.1%を占めた。次いで、「製品ニーズの変化」への指摘が、1位に挙げた企業ウエイト20.6%、1位～3位までに挙げた企業ウエイト50.0%と続いている。その他、「製品（加工）単価の低下、上昇難」は、1位に挙げた企業ウエイト17.6%、1位～3位までに挙げた企業ウエイト32.4%、「原材料価格の上昇」は、1位に挙げた企業ウエイト8.8%、1位～3位までに挙げた企業ウエイト17.6%となっている。

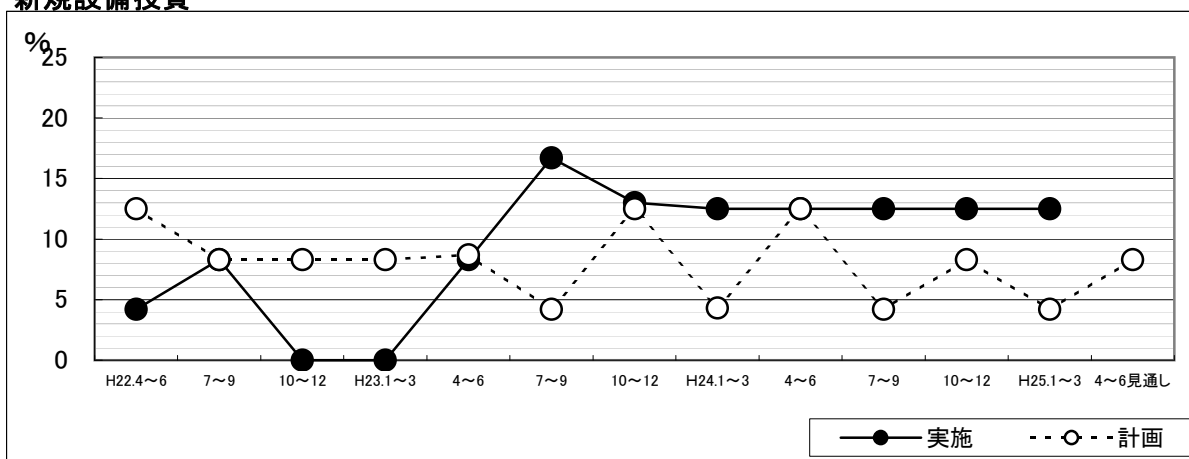
建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

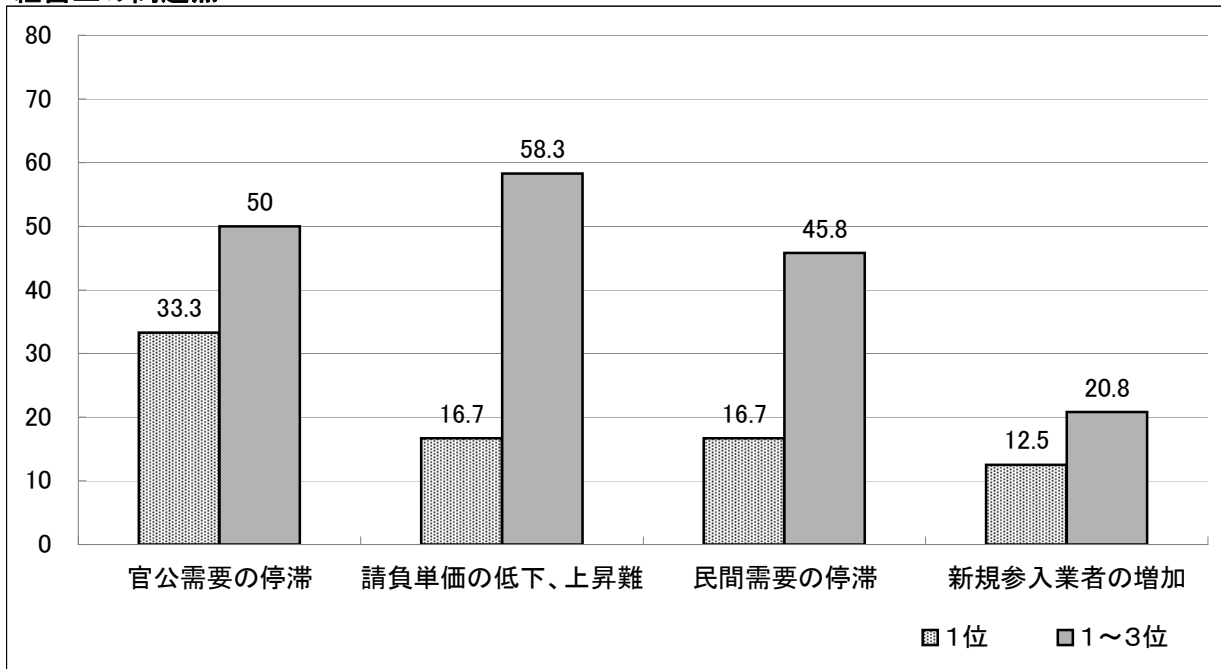
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H22.4~6	▲ 50.0	13.0	▲ 58.3	▲ 43.5	▲ 25.0	▲ 58.3
7~9	▲ 50.0	4.2	▲ 50.0	▲ 29.2	▲ 16.7	▲ 33.3
10~12	▲ 75.0	8.3	▲ 62.5	▲ 41.7	▲ 26.1	▲ 63.6
H23.1~3	▲ 34.8	8.7	▲ 47.8	▲ 13.0	▲ 4.3	▲ 39.1
4~6	▲ 16.7	37.5	▲ 49.9	▲ 20.8	▲ 21.8	▲ 41.7
7~9	▲ 20.8	33.3	▲ 29.2	▲ 20.8	▲ 21.7	▲ 33.4
10~12	▲ 22.8	17.4	▲ 17.4	▲ 8.7	0.0	▲ 30.4
H24.1~3	▲ 45.8	16.7	▲ 41.6	▲ 20.8	0.0	▲ 30.4
4~6	▲ 16.7	4.2	▲ 33.3	▲ 16.6	▲ 12.5	▲ 33.3
7~9	▲ 8.7	4.1	▲ 29.2	▲ 8.7	▲ 8.3	▲ 20.9
10~12	▲ 8.7	12.5	▲ 16.6	▲ 12.5	▲ 4.2	▲ 8.4
H25.1~3	▲ 8.4	25.0	▲ 8.7	▲ 8.3	4.2	0.0
4~6見通し	▲ 8.7	26.1	▲ 18.2	▲ 4.3	4.4	0.0



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・公共事業の適正な設計がなされていないため工事に利益が出ない。
- ・来期の業績は少し良くなる見込みですが、資金繰りが悪化しており立替払いが多くなり資金調達に苦労している。

建設業の景況

福井県内における平成25年1-3月期の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は、累計で277億18百万円の前年同期比14.4%増、発注件数でも累計912件の同5.4%の増加となった。ちなみに発注者別では、県関連工事が124億67百万円の同10.0%増、市町村関連工事が54億41百万円の前年同月比8.1%増、国家関連工事が70億87百万円の同4.5%増となったほか、独立行政法人関連工事は23億96万円と前年（2億14百万円）を大きく上回っている。一方、住宅投資については、平成24年4月から平成25年2月までの累計で、前年同期比5.3%増の3,466戸となっている。利用関係別では、主力の持家が前年同期比7.4%増の2,279戸、貸家が同1.0%減の854戸であった。

こうした中、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目中、仕入単価（逆指数）（前期12.5→今期25.0）を除く5項目で改善傾向を示した。ちなみに、各項目の指数をみると、売上高が前期▲8.7→今期▲8.4、採算が前期▲16.6→今期▲8.7、資金繰りが前期▲12.5→今期▲8.3、従業員数が前期▲4.2→今期4.2、業況が前期▲8.4→今期0.0となっている。また、先行き（H25年4-6月期）については、3項目（売上高、仕入単価、採算）で悪化、2項目（資金繰り、従業員数）で改善、1項目（業況）で横ばいとなった。

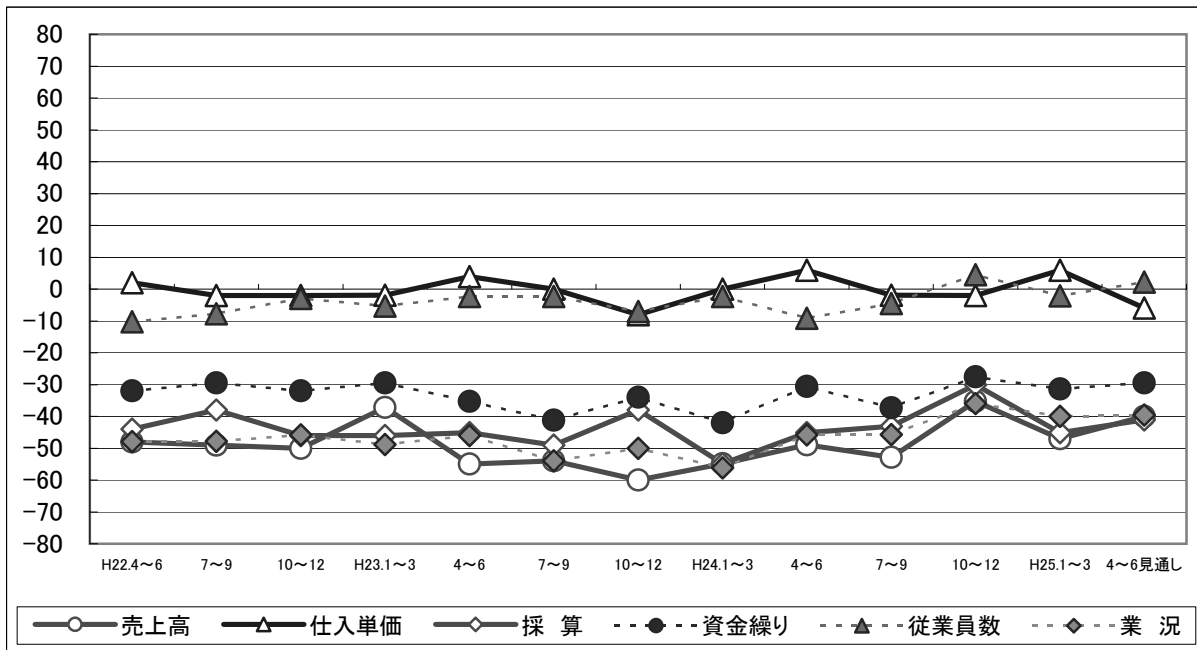
一方、新規設備投資については、計画の4.2%に対し、実施が12.5%と、実施が計画を大きく上回った。ただ、来期（H25年4-6月期）の見通しについては、計画している企業ウエイトが8.3%とやや少ない。

最後に、経営上の問題点については、「官公需要の停滞」を1位に挙げる企業ウエイトが33.3%を占め最多となった。ただ、1位～3位に挙げた企業ウエイトでは「請負単価の低下・上昇難」への指摘が最も多く58.3%に達している。その他、「民間需要の停滞」への指摘は、1位に挙げた企業ウエイトが16.7%、1位～3位に挙げた企業ウエイトが45.8%となったほか、「新規参入業者の増加」への指摘も、1位に挙げた企業ウエイト12.5%、1位～3位に挙げた企業ウエイト20.8%と比較的多い。

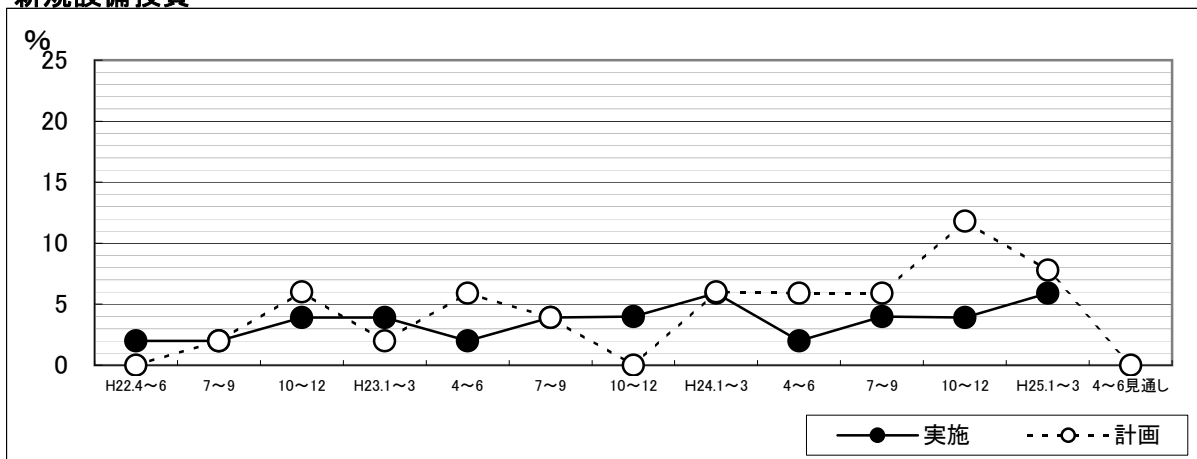
小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

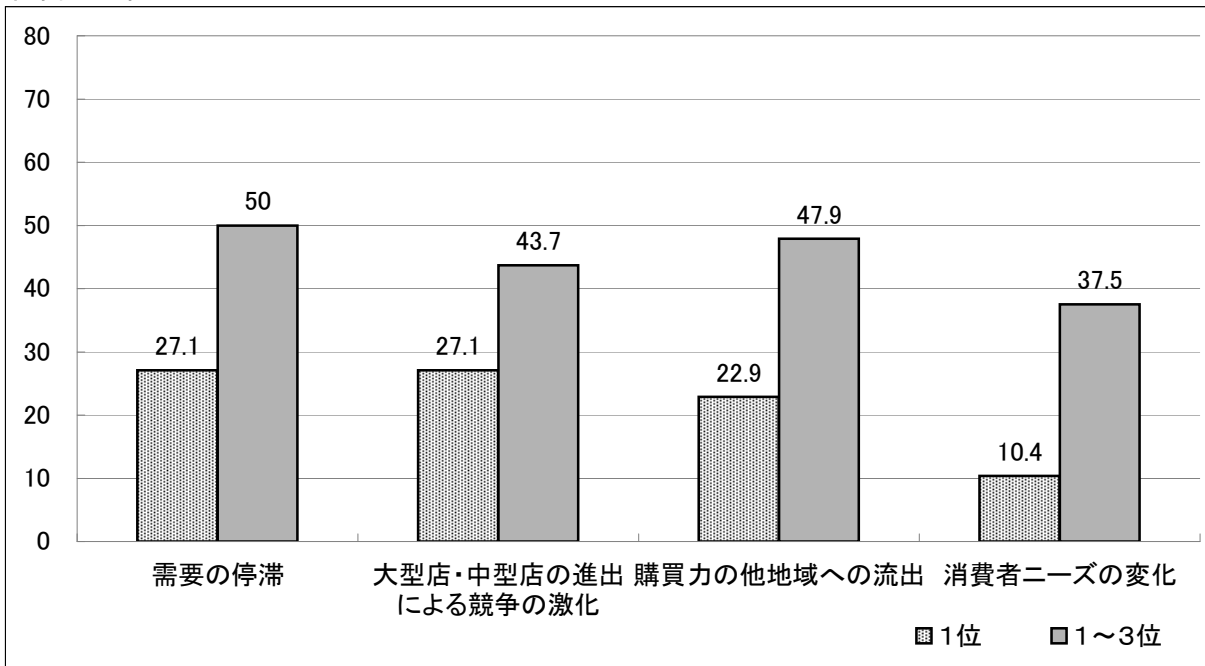
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H22.4~6	▲ 48.0	2.0	▲ 44.0	▲ 32.0	▲ 10.3	▲ 47.9
7~9	▲ 49.0	▲ 2.0	▲ 38.0	▲ 29.4	▲ 7.7	▲ 47.8
10~12	▲ 50.0	▲ 2.0	▲ 46.0	▲ 32.0	▲ 2.9	▲ 45.8
H23.1~3	▲ 37.2	▲ 1.9	▲ 46.0	▲ 29.4	▲ 5.3	▲ 48.8
4~6	▲ 55.0	3.9	▲ 45.1	▲ 35.3	▲ 2.3	▲ 46.0
7~9	▲ 54.0	0.0	▲ 49.0	▲ 41.2	▲ 2.3	▲ 54.0
10~12	▲ 60.0	▲ 8.0	▲ 38.0	▲ 34.0	▲ 7.0	▲ 50.0
H24.1~3	▲ 54.9	0.0	▲ 54.9	▲ 42.0	▲ 2.3	▲ 56.2
4~6	▲ 48.9	5.9	▲ 45.1	▲ 30.6	▲ 9.1	▲ 45.8
7~9	▲ 52.9	▲ 1.9	▲ 43.1	▲ 37.3	▲ 4.5	▲ 45.7
10~12	▲ 35.3	▲ 2.0	▲ 30.0	▲ 27.5	4.5	▲ 36.0
H25.1~3	▲ 47.0	5.9	▲ 45.1	▲ 31.4	▲ 2.1	▲ 40.0
4~6見通し	▲ 40.0	▲ 5.9	▲ 41.1	▲ 29.4	2.2	▲ 39.6



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

・景況に左右されない新たな事業の展開が求められる。
 ・売上は順調に推移しているが、近隣に競合店が出店し競争が激化している。お客様に支持される店作りをさらに努めなければならない。また、経費削減目標を設定し、努めなければならない。

小売業の景況

近畿経済産業局が発表する県内大型小売店販売額状況（百貨店＋スーパー、全店ベース）をみると、平成25年1月が71億44百万円の前年同期比1.8%増、2月が55億32百万円の同0.6%増と前年を上回る水準で推移している。この要因は、大型TVなどの家電品や冬物衣料の動きが鈍いものの、飲食料品が増加しているほか、高額品に動きがみられることなどによる。

ただ、今回の景況調査では、景況感を示す6項目のDI値全てが悪化傾向を示した。項目別では、売上高が前期の▲35.3から今期▲47.0へ、仕入単価（逆指数）が▲2.0から今期5.9へ、採算が▲30.0から今期▲45.1へ、資金繰りが前期の▲27.5から今期▲31.4へ、従業員数が前期の4.5から今期▲2.1へ、業況が前期の▲36.0から今期▲40.0へと悪化が進んだ。しかし、今後の見通し（H25年4-6月期）については、6項目全てで改善予測となっている。

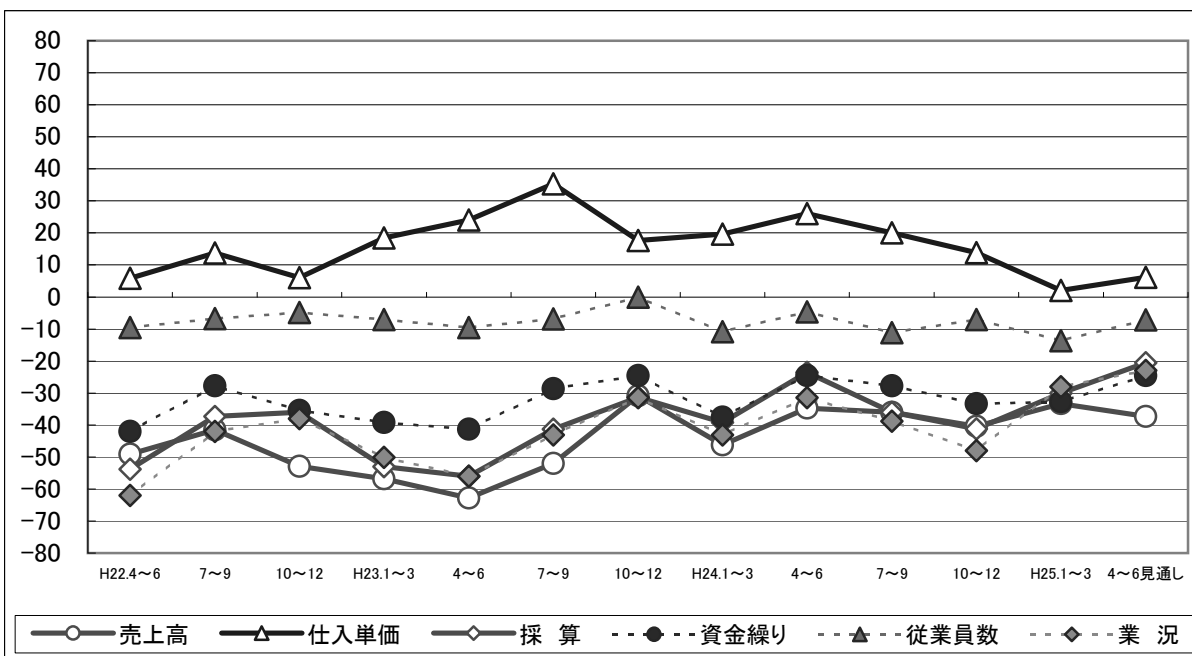
一方、新規設備投資については、計画7.8%に対し実施が5.9%と、実施が計画を下回っているほか、来期の計画についても設備投資を計画する企業がみられないなど、低調な投資動向となっている。

最後に、経営上の問題点については、「需要の停滞」と「大型店・中型店の進出による競争の激化」への指摘で1位に指摘する企業ウエイトが同率となり最も多く27.1%を占めた。ただ、1位～3位に指摘する企業ウエイトでは「需要の停滞」への指摘が50.0%と最多となった。また、「購買力の他地域への流出」への指摘も1位に指摘する企業ウエイト22.9%、1位～3位に指摘する企業ウエイトが47.9%と比較的多い。その他、「消費者ニーズの変化」への指摘も、1位に指摘した企業ウエイトが10.4%、1位～3位の企業ウエイト37.5%となっている。

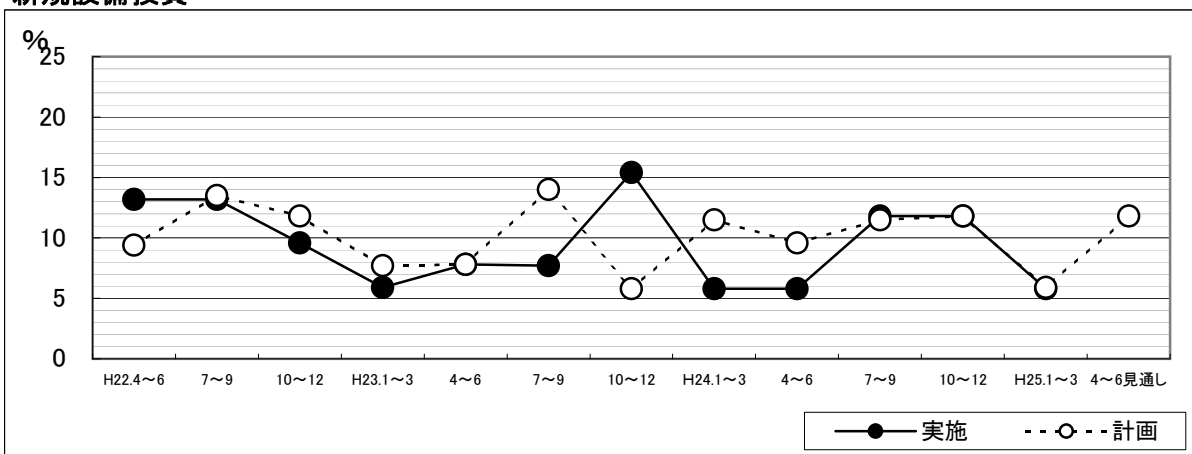
サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

景気動向(前年同期比:DI値)

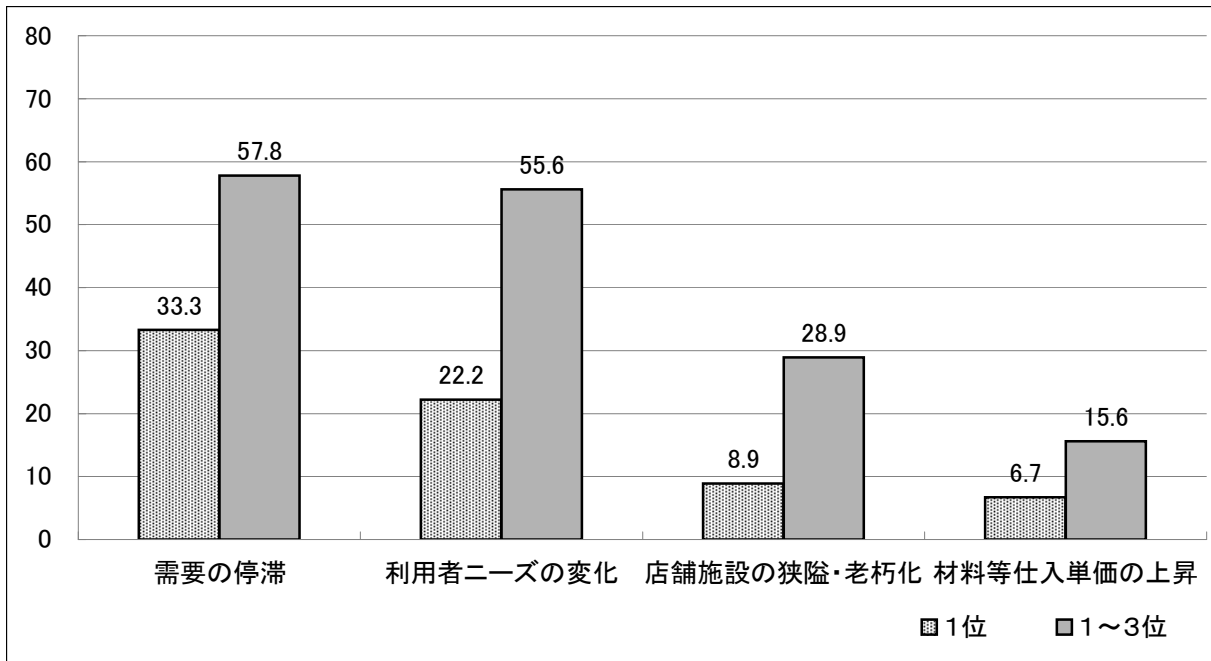
期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
H22.4~6	▲ 49.1	5.8	▲ 53.8	▲ 42.0	▲ 9.5	▲ 62.0
7~9	▲ 41.5	13.7	▲ 37.3	▲ 27.7	▲ 6.7	▲ 42.0
10~12	▲ 52.9	6.0	▲ 36.0	▲ 35.4	▲ 4.8	▲ 38.0
H23.1~3	▲ 56.8	18.4	▲ 53.0	▲ 39.2	▲ 7.0	▲ 50.1
4~6	▲ 62.8	24.0	▲ 56.0	▲ 41.3	▲ 9.5	▲ 56.0
7~9	▲ 52.0	35.3	▲ 41.3	▲ 28.6	▲ 6.8	▲ 43.1
10~12	▲ 30.8	17.6	▲ 31.3	▲ 24.5	0.0	▲ 31.4
H24.1~3	▲ 46.2	19.6	▲ 39.2	▲ 37.5	▲ 10.8	▲ 43.1
4~6	▲ 34.7	26.0	▲ 23.5	▲ 24.5	▲ 4.6	▲ 31.4
7~9	▲ 36.0	20.0	▲ 36.0	▲ 27.7	▲ 11.1	▲ 38.8
10~12	▲ 40.4	13.8	▲ 41.2	▲ 33.3	▲ 7.0	▲ 48.0
H25.1~3	▲ 33.3	2.0	▲ 30.0	▲ 32.7	▲ 13.6	▲ 28.0
4~6見通し	▲ 37.3	6.1	▲ 20.5	▲ 24.5	▲ 7.1	▲ 22.9



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・利用者は大企業がバックにある「低価格」に流れている。個人事業では価格競争できないので、セールスポイントをしっかりと作っていかなくてはならない。が、難しい。
- ・近くの同業者と価格差を合わせていこうと考えている。平日来店していただけるサービス・プランを企画している。

サービス業の景況






経済産業省が毎月公表する第3次産業活動指数（季節調整値、2005年＝100）の推移をみると、H25年2月現在、99.9、前月比＋1.1%と2か月ぶりの上昇となった。ちなみに、業種別動向を見ると、卸売業・小売業（前月比＋0.9%）、金融・保険業（同＋1.9%）、学術研究・専門・技術サービス業（同＋2.0%）、情報通信業（同＋0.9%）、医療・福祉（同＋0.5%）、電気・ガス・熱供給・水道業（同＋1.2%）、宿泊・飲食サービス業（同＋0.7%）、不動産・物品賃貸業（同＋0.3%）、その他サービス業（公務等を除く）（同＋0.4%）、複合サービス事業（同＋3.1%）で上昇。輸送・郵便業（同▲0.2%）、学習支援業（同▲0.5%）で低下している。





























































こうした中、福井県のサービス業に関し今回の景況調査をみると、DI値6項目中従業者数を除く5項目で改善傾向を示している。ちなみに、前期と今期を比較すると、売上高（▲40.4→▲33.3）、仕入単価（逆指数）（13.8→2.0）、採算（▲41.2→▲30.0）、資金繰り（▲33.3→▲32.7）、従業員数（▲7.0→▲13.6）、業況（▲48.0→▲28.0）となっている。また、先行き（H25年4-6月期）については、売上高、仕入単価（逆指数）の2項目で悪化、採算、資金繰り、従業員数、業況の4項目で改善予測となっている。

一方、新規設備投資については、計画5.9%に対し実施が5.8%と、ほぼ計画通りの実施状況となった。ただ、先行きについては何らかの投資を計画している企業ウエイトが11.8%に増加するなど、投資意欲の改善が期待される。

最後に、経営上の問題点については、「需要の停滞」への回答が、1位に指摘した企業ウエイト33.3%、1位～3位までに指摘した企業ウエイト57.8%と高い水準となったほか、「利用者ニーズの変化」への指摘も、1位に指摘した企業ウエイト22.2%、1位～3位に指摘した企業ウエイト55.6%を占めている。その他、「店舗施設の狭隘・老朽化」（1位に指摘した企業ウエイト8.9%、1位～3位までに指摘した企業ウエイト28.9%）、「材料仕入単価の上昇」（1位に指摘した企業ウエイト6.7%、1位～3位までに指摘した企業ウエイト15.6%）への指摘もみられる。

全国・福井景気動向 平成25年1月～3月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～-40	-40.1～-100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別		売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
全国	全体						
	DI値	▲ 32.9	19.3	▲ 35.4	▲ 25.5	▲ 4.7	▲ 33.0
	製造業						
	DI値	▲ 31.7	26.5	▲ 34.3	▲ 25.9	▲ 4.3	▲ 31.2
	建設業						
	DI値	▲ 13.5	29.4	▲ 24.9	▲ 15.2	▲ 1.4	▲ 17.4
	小売業						
	DI値	▲ 45.2	7.5	▲ 44.0	▲ 32.9	▲ 5.6	▲ 45.7
	サービス業						
	DI値	▲ 32.3	20.6	▲ 34.1	▲ 23.9	▲ 5.9	▲ 31.0
福井	全体						
	DI値	▲ 29.7	11.3	▲ 29.7	▲ 25.9	▲ 3.3	▲ 24.7
	製造業						
	DI値	▲ 13.9	23.5	▲ 21.0	▲ 21.1	2.7	▲ 15.8
	建設業						
	DI値	▲ 8.4	25.0	▲ 8.7	▲ 8.3	4.2	0.0
	小売業						
	DI値	▲ 47.0	5.9	▲ 45.1	▲ 31.4	▲ 2.1	▲ 40.0
サービス業							
DI値	▲ 33.3	2.0	▲ 30.0	▲ 32.7	▲ 13.6	▲ 28.0	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。